同窓会助成事業

ロボットの独り言

建設システム工学科教官　西　山　等

僕たちは、舞鶴高専の学生諸君が作ってくれたロボットだよ。ロボットといっても君たちのように頭もないし、手も足もない。飛んだり跳ねたり、泣いたり笑ったりもできないけど、心の中では君たちの気持ちは充分にわかっているつもり。君たちは、生まれもちがうし、育ちもちがう。顔もちがうし、性格もちがう。色んな人がいるから面白いんだ。僕たちロボットだって同じ。ロボットコンテストとかいうロボットの集まりに行くと今まで見たことのない面白いやつがいっぱいいるんだ。途中でこけるやつもいれば、超特急のように速く動くすごいやつもいる。

僕たちロボットは君たちに作ってもらって本当に感謝している。思いおこせば、半年前、こんなコンテストをやるからという知らせがあったね。でも、このときは、僕たちは影も形もなかった。君たちは、僕たちロボットを作るためにこんなふうにしよう、あんなふうにしようと考えてくれたね。もしかして、この時が君たちにとって一番楽しかった時期かもしれないね。しばらくたって、僕たちロボットに名前を付けてくれたね. 漢字のやつやら、カタカナのやつやら、英語のやつやら、そして宇宙文字？？のやつやら・・・・。名前を見るだけでも面白い。堅物もいれば冗談半分のやつもいる。この名前は世界に一つしかないんだね。いずれこの名前は世間から忘れ去られるかもしれないけれど、僕たちを作ってくれた君たちの心の中では一生の友達だよね。

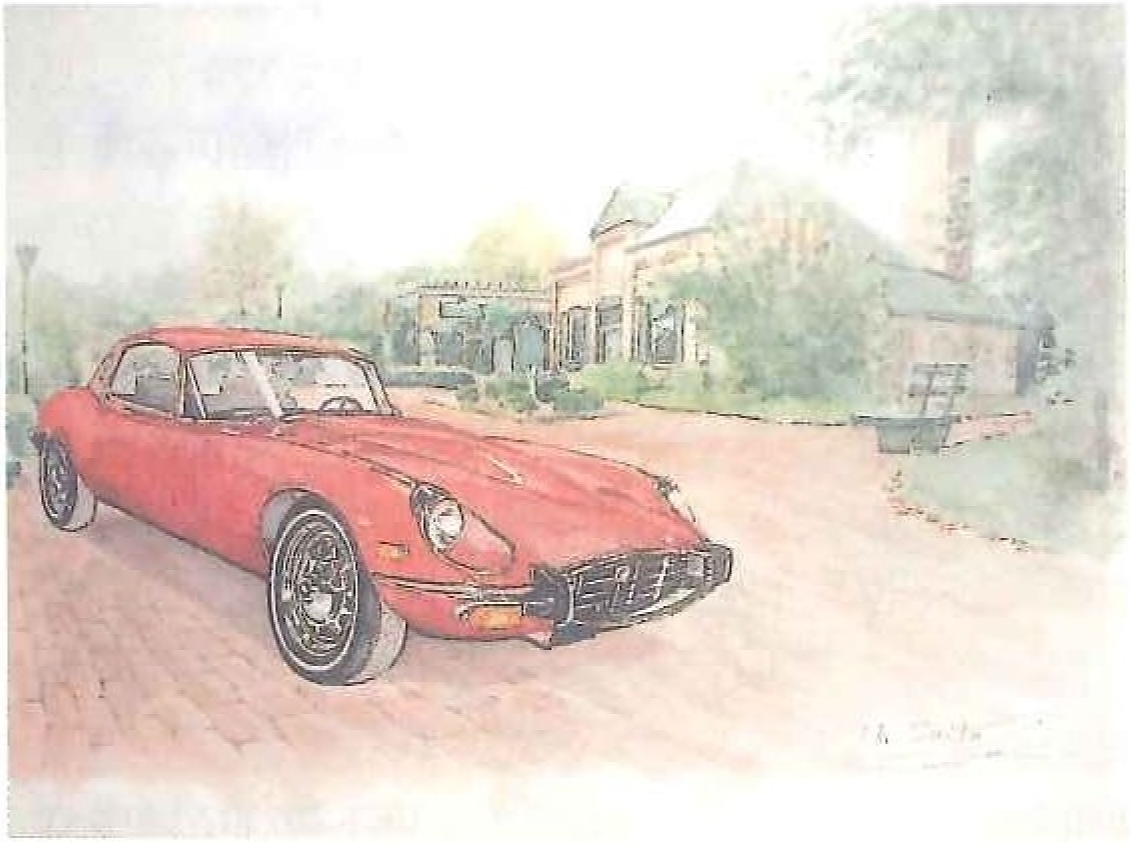
夢もつかの間、それからが苦闘の連続だったよね。6月には、コンテストに応募するためにアイデアや動き、そして作戦などを書いた書類を提出しなければならなかったし、僕たちを作るためには、時間がたくさんいるから、あの暑い夏休みを君たちは学校で合宿しながら僕たちを作ってくれた。そして、夏休みが過ぎ、前期末の試験が過ぎ、後期の授業が始まり、その間、少しずつ僕たちロボットは出来上がっていくけど、大体僕たちロボットは、わがままだから君たちの思うように動くことができないんだ。これは僕たちだけではどうもできないんだ。でも、君たちは決して僕たちを見捨てることはしなかった。コンテストが近づくにつれてどんどん夜おそくまで僕たちを作ってくれたよね。夜おそくなると奇声を発する彼の存在も忘れないよ。こんな君たちの僕たちへの愛情が、身を結んでいつのまにかうまく動くようになっていった。

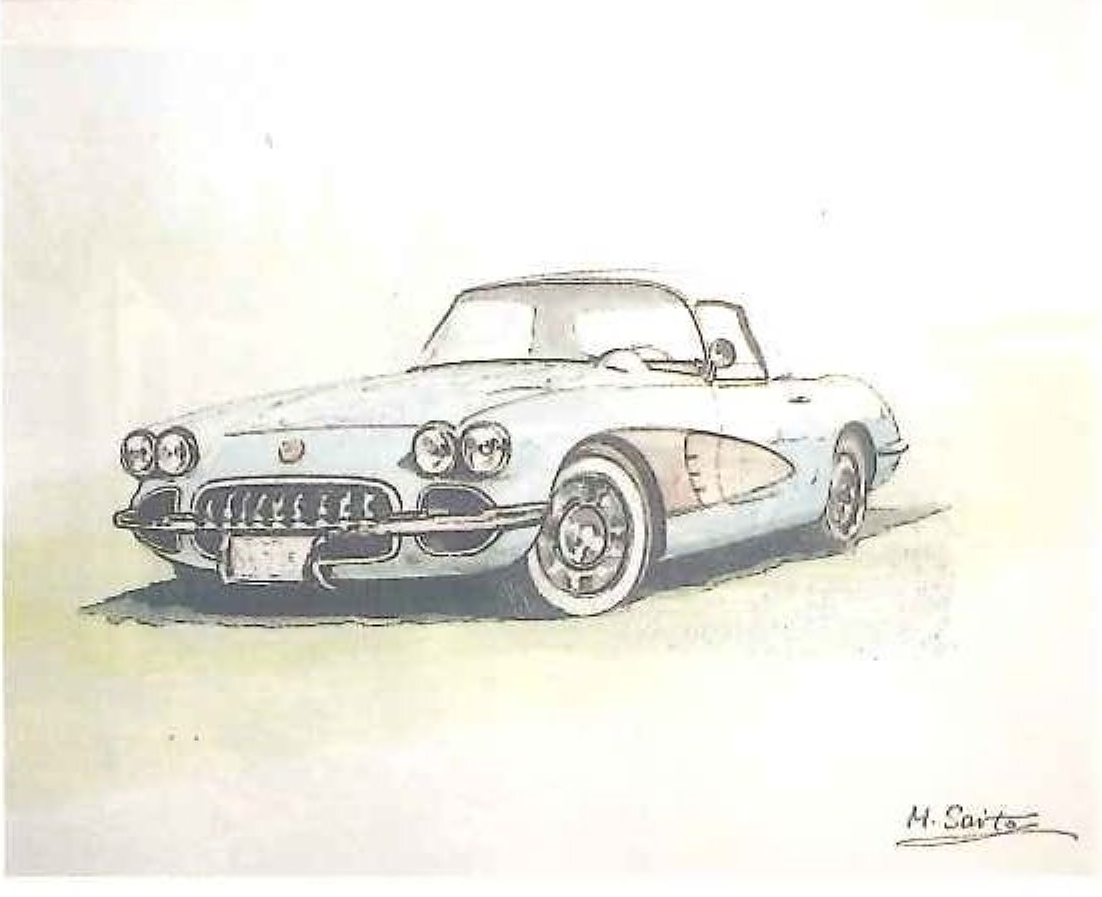
そして、コンテスト前日、僕たちロボットは程良く解体されて車にゆられて旅に出たよね。これも楽しい思い出だよ。これから始まる君たちの不安と期待を胸に、君たちの多くは夢の中、やつれた顔もあれば幸せそうな顔もあった。そんな寝顔を見ながら会場に到着した。会場に到着すると他の高専の学生諸君が作った僕の友達に初めて出会った。その友達も僕と一緒で、大体は解体されて運ばれてくるから、初めは形や性格はあまりわからなかったけどさ。でも時間が経つにつれて僕たちロボットは、君たちの力で元の形に復活して息をふきかえしたよね。息をふきかえすと今度は僕たちロボットの身体測定があったよね。ここで、もし身長が高すぎたり、体重が重すぎたりすると、せっかく作ってもらった僕たちのからだの一部が君たちの手で取り外されたり、削ったりされるんだよね。これは悲しいことだけどルールだから仕方がないことだよね。身体測定が終わると、今度はテストランといって、試合する場所で初めて僕たちの動きを君たちが確かめたり、他の人達に見てもらったりたりするんだけど、何せ初めてだから緊張したり恥ずかしかったりしてうまいこと動けなかった。うまいこと動けなかったときには、君たちは何とかしてもっと動けるように頑張ってくれた。それも短時間でさ。これには関心するよ。でもさ、僕たちロボットは生き物？だから体調不良のときもある。君たちの期待に充分そえなかったとしたらご

めんなさい。テストランでうまく動けば、僕たちも君たちもその晩はぐっすり休めるね。うまく動かないときには不安な一夜を過ごすんだよね。さて今年はどうだったかな？

コンテスト当日、君たちは休む暇もなく僕たちの体調を万全にするために一生懸命頑張ってくれた。そして、今までの君たちの努力の成果を披露するコンテストが始まった。大体は今までの君たちの頑張りの成果が結果として出て来るんだけど、会場には魔物が住んでいて、だれも知らない間に魔物が大事な血管みたいなところを切ったりしていて、動くはずのところが動かなかったりするんだよね。逆に天使も住んでいていままで動かなかったところが突然動くようになるようなこともあるんだよね。

コンテストで勝ち進んだり、よい賞をもらうと本当にうれしいよ。でも、すぐに負けたり、賞がもらえなかったときには決して悔やまないでほしい。君たちは今まで頑張って来たんだから。目標に向かって頑張ってきたこと、これは貴重な人生の財産となるよ。これからも僕たちロボットは君たちとともに歩んでいく。感動というロマンを求めて・・・・・





水彩画提供　斎藤正幸氏